

中間のまとめに対する意見(令和5年11月15日市議会厚生委員会)

番号	計画	施策・頁	意見要旨	取扱い方針(案)
1	健康	基本施策2(1) 45頁	健康増進計画の食育推進のところ、中間のまとめP44に30代前後の食事以外食が多いという課題があるということが委員会でも出てきて、賢い選び方というアプローチは非常に有用だと思った。食育は多様に柔軟な提案が大事だと思うので、いろいろな切口を検討していただきたい。	45頁「食習慣の形成・維持・向上に向けた取組み」「個々の栄養課題の解決に向けた支援」「食に関する情報発信の充実」で記載しているとおり、様々なライフスタイルの方に健康的な食生活を実践してもらえるよう、様々な切り口・手法を検討していきます。
2	健康	基本施策2(5) 60頁	健康増進の休養やメンタルヘルスに関して、医療機関への受診のハードルを下げていくアプローチはできないのかと思っている。病院にいくハードルを下げる、受診のハードルを下げるアプローチを市としてできないのか。これまでの検討状況も含めてお伺いしたい。	休養やメンタルヘルスについて、医療のことも含め啓発・広報を検討していきます。60頁「休養・メンタルヘルスに関する知識の普及」一番上の●に、受診への不安を軽減するような情報提供を行う旨を追加しました。
3	健康	基本施策4(1) 72頁	予期せぬ妊娠などにより不安を抱えている妊婦への支援については、医療機関との連携が非常に重要なので、市内医療機関で簡単に渡せるようなチラシを作成していただくとか、いろいろな方法で情報が届けられるような仕組みをぜひ検討してほしい。	72頁「個別支援の充実」「関係機関との連携強化」で記載しているとおり、引き続き医療機関と連携強化に努めます。
4	自対	第1章(4) 135、136頁	中間のまとめP129、130の自殺の原因等を見ると雇用労働に関わる理由が多い。40～50代の働いている方への施策をもう少し記載できるのではないかと。仕事・雇用という言葉の立った窓口があってもいいのではないかと。	働き世代や企業への施策については、60、170、174、175、180頁などに記載しています。180頁に「個人だけでなく企業や職場等へ啓発として、事業者が利用できるメンタルヘルス出前講座の案内や産業保健サービスなどの周知を図る」旨を追記します。仕事・雇用という言葉の立った窓口については、『働く人のこころの耳電話相談』『ハローワーク』『東京都労働労働相談情報センター』『TOKYOチャレンジ』など、既存の窓口を周知していきます。

番号	計画	施策・頁	意見要旨	取扱い方針(案)
5	自対	基本施策4 167頁	<p>中間のまとめP161タブレットを活用した自殺リスクの把握とはどのようなものなのか教えてほしい。また、子どもの自殺リスクが一番高まるのは夏休みが終わり秋学期が始まるタイミングだと思うが、実際にタブレットの活用が有効なのかをお伺いしたい。</p>	<p>タブレットの活用に関する詳細な方法については、今後検討を進めていき、計画に記載のとおり自殺リスクの把握や支援情報の発信などの取組みを推進します。</p> <p>なお、各学校により、夏休み期間における教育上のタブレット活用の機会は異なるが、日常的に活用されるものと思われます。</p>